



木童通信 vol.14

平成20年4月発行

木童 東京ショールーム

open 月～金 10:00-18:00 ± 11:00-17:00
close 日・祝 (事前予約いただければ日祝の見学も可能です)
東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティ1F
TEL:03-5358-5125 FAX:03-5358-5126
URL:http://www.kodoh.co.jp E-mail:Tokyo@kodoh.co.jp

★ 割り箸の是非を問う ～My箸ブームはECOなのか?～

“**木留まり**”という言葉が製材所に行くときよく耳にします。
一本の木の根っこから葉っぱの先までお金に換える割合の事を言います。

戦後植林した杉を例にとると1ha (100m×100m四方) に約3,000本植え、伐採される60年生には約800本にします。2200本は間伐され、有効利用したい所ですが、採算が取れず半分は山に捨てられています。その量は1年間に割り箸換算で1000億膳分、国内で消費される割り箸の4年分にもなります。山で間伐材を捨てず、製材して出た端材を有効に使えば、**木留まり**も上がり、丸太の中心から取る柱や床材も安く売れる事が出来ます。



木童通信 vol.6 で紹介した「杉の木取りで残る三角形の端材」。これも実は割り箸になる所です。

国産材の割り箸を使う事＝「材料に無駄を出さない」→「国産材を廉価に抑えられる」→「国産材が流通する(たくさん使われる)」→「CO2の受け皿をたくさん作る」という循環を助け、ECOへ貢献する事となるのです。(詳しくは木童通信VOL.11,12をご参照ください。)

日本では年間約250億膳もの割り箸が消費されています。国民一人当たりになおすと約200膳。その97%は輸入外材割り箸で、そのうち中国からの輸入が99%を占めます。数字の偏りも然ることながら、さらに驚くべき事は、皆伐した森の丸太から柱や床材を取らずに割り箸のみを造っているということです。
* 皆伐→斜面全体をまとめて伐採すること。中国ではその後、農地等に転用され植林されることは殆どないと聞きます。



▲吉野杉の割り箸
柔らかく、嫌な匂いがない

そこで世界の森を守るうと、今ブームになりつつあるのが“マイ箸”です。自分の箸を持ち歩き、割り箸を使わないという運動です。マスコミでも取り上げられ、ECOという言葉と共に少しずつ認知されてきています。さて、ここではっきりさせておきたいことは、割り箸＝輸入外材割り箸を前提としているということ。ECOに共感してマイ箸を持ち歩く人たちも、国産割り箸がたった3%しか使われていない事には誰も注目していません。

AERA
平成19年9/17号より▼



国産割り箸はECOであるにもかかわらず、なぜ使われないのか?

・・・それは、輸入外材割り箸よりも価格が高いからです。
採算性だけを重視した結果、輸入外材の安い割り箸を置いている飲食店が多いのです。

こんな経験をしたことがある方はありませんか?
以前私はある飲食店で出された割り箸の匂いが気に入り、取り替えてもらったことがあります。しかし新しく出された割り箸からも同じ匂いがして、せっかくのお料理の味が分からず、おいしくいただくことができなかつたのです・・・。

- 輸入外材割り箸の問題点とは、
① 外国の天然林から割り箸を生産するために伐採し、製品にしている → 森林破壊
② 白い色の割り箸が日本では好まれるため、漂白剤で白くしている → 食の安全性は確保されているのか不安
③ 樹種が特定出来ない、原木産国が判らない、生産者が特定出来ない → 生産管理の不安

そんな割り箸を使いたくない!! という人達にとって、マイ箸はECOと言うより防衛策かもしれません。本当のECOを日本全体で実行していくためにも、「割り箸」という製品の是非を問うのではなく、それが“どのような経緯でつくられた割り箸なのか”を考え、検討していく必要があると思います。全国の林産地の人々は、今日も木留まりを上げるために頑張っているのですから。
*最近では国産割り箸に広告をつける“アド箸”や、うんちくを付けて有料で販売するケースなども出てきています。



★ 家づくりの現場から① ～地松の梁とから松の大黒柱の家～



長野県産材を使った住宅が上棟しました。柱に杉、梁に**赤松**、大黒柱に**から松**を用いました。長野県では人工林の過半数をから松・赤松が占めており、利用が望まれています。木童は長野県産材の販路拡大をする団体に参画し、この物件では県産材の製品50万円を提供する長野県の制度を利用しました。価格的には米松よりやや高くはなりますが、元来住宅の梁材として使われてきた国産赤松を今後は是非取り入れて欲しいと思います。

★ 家づくりの現場から② ～杉の丸太梁(7桁×30桁～50桁の巨木)を魅せる～

H社の木童の材を使った2つ目のショールームです。ビル内にあって、空調が木の水分を奪って行き、過乾燥になる環境。ここで木童の乾燥材が頑張ることになります。受注から納材まで1ヶ月しかなかったため、**丸太梁**は、まだまだ乾燥が出来ていないが、この大きさの木が割れる理由を説明出来る要素になって良いかもしれないと思っています。三島、沼津に行かれるときは声をかけて下さい。(しっかり乾燥した材と乾燥の甘い材の違いは木童ショールームでも見て取れます。)



▲組み上がった状態。甘皮付き+掃洗塗りの仕上げ

←ビルの2Fに8人掛かりでやっと搬入。元口は500mmを超え、堂々とした迫力。

★ 家づくりの現場から③ ～から松の構造材の魅力～



から松の梁材!?と聞いてドキドキされる方は、木を良く知っているか、過去痛い目に遭った事があるかですね(笑)。赤身の上品な表情とは裏腹に、梁材にすると見事にねじれるのがから松の特徴でした。現在は杉でも確立している乾燥方法で問題ないレベルに仕上げられます。植林されてきた**から松**が梁材として利用出来る寸法になってきました。元々強度はあるので、梁成を抑えたい場合等にいかが? (写真右の外壁もから松です)

★ “木育”という言葉を知っていますか?

多くの人が木に「暖かさ」「柔らかさ」「安らぎ」等を感じると言います。しかし現在は身近な生活用品から木材、とりわけ国産材の利用が減少している状況にあることから、木材に触れ、感じる機会についても少なくなっていると言えます。そこで、まずは子供達に木が身近なところにあるという環境を作ってあげることで、感覚的な木材の良さについての認識を、大人の押しつけでなく、五感を通じた楽しい活動を通じて持ってもらおうというのがねらいです。

*「木育」とは、市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ教育活動の総称です。

地球環境や健康問題に関心があっても、木材に触れる機会が減少しているために、木材を使う意義についての認識が低いと言わざるを得ない状況です。子供たちが楽しい時間を誰かと共感した体験は、将来、地域の森林や、木材について気付くきっかけとなってくれることを願い、“木育”という場がもっともっと盛んになることを木童も応援しています。木のおもちゃは今後も徐々に増やして行く予定です。ご期待下さい☆

子供達が楽しみながら木に親しめるおもちゃ特集!!



ころころオルゴール
各6,000円



パズルボックス
4,200円



トンカチ細工
4,800円



森のさえずり
3,990円～
(サイズによる)

木童 NEWS ラインナップ

- 第46回企画展 4/7(月)～19(土) 木の家大すきの会 最終日 13:30～セミナー予定
「ふるさとの木で家を建てませんか」宮崎県からゲストを呼びます。
- 第47回企画展 5/12(月)～31(土)
- 第48回企画展 6/2(月)～6/7(土) 木の家大すきの会 最終日 13:30～セミナー予定
- 木の家づくりご相談随時受付しています。現在木童でご紹介した建築家とのプロジェクト3件が進行中!